

修学旅行のとりくみ始動



早いものでもうすぐ師走。12月の声を聞こうとしている。なんと来年は3年生だ。そんな今、もう修学旅行のとりくみが始まった。「なんて早くから」と思うかもしれないが、今年からドリーマーズ・タイム（総合的な学習の時間）の一環として修学旅行のとりくみを行うので、この時期からじっくりととりくめるのだ。今の時期にしっかりととりくみの概要をつかみ、3年生になったらあっという間に班編制をして、自主プランをつくらなければならない。それは始業式から2週間のとりくみである。そのために、今からさまざまな準備をしようということだ。

まずは2年段階の仮の班をつくった。そして、集会でもあったように、班長の役割がとても重要である。このあと3月までの班長だからしっかりととりくんでほしい。

ということで、これが**2年4組のまっきっきの班長**である。選ばれた6人はそれなりの理由があって選ばれておる。この班長と共に班員もしっかりと協力するように。なお、裏面には集会時のプリントを再掲してある。もう一度よく味わうように。

班名	班長	班員
4 1	佐藤	須麻 山本 森尾 一后 明星
4 2	浅永	西川 橋本 前田 飯田
4 3	松井	小泉 畑 真柄 山下 金谷
4 4	室谷	平野 宮下 細谷 小村 金元
4 5	久保	高崎 樋口 長谷川 村井 本村
4 6	阪本	倉本 吉岡 角村 川口 中野

今日の合格朝学習

← また10人もいる!!
何に合格って? そりゃ高校さ。

州というか、
③ [チャレンジ] アメリカ合衆国の綿花地帯で、黒人の人口比率が他の農業地帯より高い理由を書きなさい。(8点)

アフリカから奴隷として連れてこられたから

奴隷として連れてこられた黒人が働いているから

奴隷として、綿花を刈らせるために連れてこられた。

大農園を働かせるためアフリカから多くの黒人奴隷を連れてきたから

アフリカから奴隷として、アメリカに連れてこられたから

昔、アフリカから奴隷として、アメリカに連れてこられたから

わった。何州というか、
③ [チャレンジ] アメリカ合衆国の綿花地帯で、黒人の人口比率が他の農業地帯より高い理由を書きなさい。(8点)

昔、アフリカから奴隷として、アメリカに連れてこられたから

この地域は太平洋に面しているから

黒人の人口比率が高いから

労働力が不足を補うため。

昔、アフリカから奴隷として、アメリカに連れてこられたから

働かせるためアフリカから多くの黒人を連れてきた。

働かせるためアフリカから多くの黒人を連れてきた。

班長の3条件

まとめる、ひっぱる**統率力**

きっちりやりぬく**責任感**

きくばり、気づかい、気のきく**心**

毎度おなじみまとめると、**まっきつきの班長**が必要なのだ。

「ぼくは金閣寺へ行きたいよ。」

「何いってんのよ。やっぱりしぶく銀閣寺に決まってるじゃないの。」

「受験生だったら北野天満宮だよ。絶対行こうよ。」

てな具合に班員がもめたとき、みんなの意見を『まとめる』統率力があるのが班長。

「もう時間が少ないぞ。だらだらしてないで、さっさととりくおよ。」とみんなを『ひっぱる』統率力があるのが班長。

「なんか時間余っちゃったし、ゲーセン行く？」

「ねえねえ、それよりも京都限定ブリクラの方がいいわよ。」

てな具合に道はずれそうになったとき、「ダラぶち！この時間で早く次の見学地行くぞ！」とみんなを『ひっぱる』統率力があるのが班長。

どのプリントもすみからすみまできっちり読んで理解して、

班の資料・本をなくさないで、誰が今持っているか知っていて、

奈良や京都のことはいろいろ勉強してよく知っていて、

自主プランのつくりかたをよく研究していて、やり直しにならない一発合格のプランがつくれて、

班の自主プランは何度も何度も確かめて、しつこく確かめて提出し、

提出締め切り日は断固守り、

「すごい！そんなことまでやってたのか～！」というようなことをヒソカにしている

そんな、『きっちり何事もやりぬく』責任感があるのが班長。

「さあ、男女仲よくやろうやあ」「どうせやるなら楽しくね」と自分の班の雰囲気をつくりだして、

「京都ではキョトキョトせんようにしようね。」とオヤジギャグの一発もかまし、寒い笑いを誘い、

「そんな、ケンカせんといね」と雰囲気こわれそうになっても立て直しができる、

「もうできた？」「できそう？」とうまく進まない人への配慮ができる、

「ねえ、この字変じゃない」「時間あわんよ」などとさりげなく何かを見つけてあげられて、

「そんじゃ、そこは手伝ってあげる」とさりげなくカバーができる

そんな、『きくばり、気づかい、気のきく心』を持っているのが班長。